

4. 剪定に関わる基本事項

(1) 樹木の自然樹形と緑化機能

樹木が自然に育ちながら作っていく形を自然樹形と言い、街路樹はなるべく自然樹形で維持することが景観面からも良い。特に、沖縄を代表する樹木にはガジュマルやコバテイシなどの傘状形の樹木があり、これら樹木の自然樹形は熱帯・亜熱帯特有のものと言えるもので、それが「沖縄らしさ」を象徴する要素でもある。この傘状形の樹木が多いことが沖縄の街路樹の特徴でもある。

街路樹の自然樹形は、傘状形や玉形等 6 種類に区分でき、那覇市道に植栽されている樹木をこの樹形分類に基づいて区分すると下表のとおりである。緑化機能という視点でみると、傘状形や玉形及び盃状形が卵円形や円錐形よりも多様な機能を有する。

これまでの県道や国道における道路植栽は、沖縄の亜熱帯という気候条件において夏季の酷暑時に涼しい歩道環境を創出するということ、また、観光が主要な産業と位置づけられていることから、観光地に繋がる道路の修景美化を図るという目的もあり、緑陰形成や修景植栽機能を重要視し、傘状形の樹木を積極的に植栽してきた。

一方、維持管理面から樹形と剪定の関係は密接であり、この傘状形や玉形のもので地上の低い位置で横枝を広げるタイプの樹木は、大型種で歩道幅員が狭いほど剪定が必要になる。反面、円錐形や卵円形の樹木は狭い歩道に納まりやすく、剪定も少なく済む。

このように、沖縄の街路樹は傘状形の樹木が多いことから、特に剪定により適切に管理していくことが求められている。



傘状形のガジュマル
(天久安里線)



盃状形のリュウキュウマツ
(銘苅泊線)

◆樹形分類

樹形	対象樹種	主な植栽機能					
		緑陰形成	修景植栽	視線誘導	緩衝機能	遮光	環境保全
傘状形 	アカギ、インドシタン、インドボダイジュ、ガジュマル、クスノキ、コバテイシ、コバノコバテイシ、ハスノハギリ、ファイカスハワイ、ベンジャミン、 ホウオウボク、ヒカンザクラ	◎	◎	◎	◎	○	◎
玉形 	アセローラ、オオバアカテツ、カキノキ、 コガネノウゼン、ゴールドンシャワー、サガリバナ、シダレブラシノキ 、シャリンバイ、ビワ、フィリインドゴムノキ、リュウキュウコクタン、オオハマボウ	◎	◎	◎	○	○	◎
円錐形 	タイワンフウ、ナンヨウスギ、 キワタノキ	○	◎	◎	○	○	○
盃状形 	オオバナサルスベリ 、クロヨナ、シマグワ、センダン、ソウシジュ、 シマサルスベリ 、 タイワンモクゲンジ 、トックリキワタ、バンレイシ、リュウキュウマツ、	◎	◎	◎	◎	○	○
卵円形 	アカテツ、アカサヤマメノキ、 アカバナイッペー 、イスノキ、 オオバナソシンカ 、カイズカイブキ、キョウチクトウ、 クチナシ 、タブノキ、 デイゴ 、ホルトノキ、モクマオウ、 ピンクテコマ 、 フィリソシンカ 、フクギ、ホソバシャリンバイ、 ムラサキイペー 、 モクセンナ 、 ムラサキソシンカ 、 モモイロノウゼン 、ヤマモモ、ユーカリフトモモ	○	◎	◎	○	○	○
ヤシ形 	シンノウヤシ、トックリヤシモドキ、ビロウ、マニラヤシ	○	◎	◎	○	○	○

※赤字は花木

(2) 樹木の樹冠分類

那覇市道に植栽されている樹木は、種類としては 60 種である。これらの植栽樹木は、生長してできあがる樹木の大きさ、いわゆる「樹冠」の違いで大型種、中型種、小型種及びヤシに区分できる。この樹冠の違いが、植栽される歩道幅員の規格により自然樹形で維持できるか否か密接に関わる。

下表は、市道の植栽樹木を樹冠分類し、植栽する歩道の適正幅員を示したものである。県道の場合、歩道上は人と車椅子がすれ違える広さとして歩行幅員を 2m 確保するようにしているため、3m 以下の歩道には植栽を行わないことにしている。しかし、市道の場合は 3m 以下の幅員でも植栽されている。

植栽されている歩道には定められた「建築限界」があり、その歩道空間の中で樹冠が納まらなくなった場合に「剪定」という手段で道路の建築限界内に樹木を収める。

◆那覇市道における街路樹の樹冠分類

分類	対象樹種	歩道幅員
大型種	アカギ、アセローラ、インドシタン、インドボダイジュ、ガジュマル、クスノキ、コバテイシ、センダン、タイワンモクゲンジ、タブノキ、デイゴ、トックリキワタ、ハスノハギリ、フィカスハワイ、フィリインドゴムノキ、ベンジャミン、ホウオウボク、リュウキュウマツ	5m 以上
中型種	アカサヤマメノキ、イスノキ、オオバアカテツ、オオハマボウ、カキノキ、キョウチクトウ、キワタノキ、クロヨナ、コバノコバテイシ、サガリバナ、ソウシジュ、タイワンフウ、ゴールデンシャワー、バンレイシ、ヒカンザクラ、ビワ、ホルトノキ、モクマオウ、ヤマモモ、ユーカリフトモモ	3.5m 以上 5m 未満
小型種	アカテツ、アカバナイッペー、オオバナサルスベリ、オオバナソシンカ、カイズカイブキ、クチナシ、コガネノウゼン、シマサルスベリ、シダレブラシノキ、シマグワ、オキナワシャリンバイ、ナンヨウスギ、ピンクテコマ、フィリソシンカ、ホソバシャリンバイ、フクギ、ムラサキシソシンカ、モクセンナ、モモイロノウゼン、リュウキュウコクタン、ムラサキイペー	3.0m 以上 3.5m 未満
	リュウキュウコクタン、オキナワシャリンバイ、フクギ	3m 未満
ヤシ	シンノウヤシ、トックリヤシモドキ、ビロウ、マニラヤシ	3m 以上

※赤字は花木

望ましい植栽は、下図のとおり歩道幅員を考慮して樹木を植栽することである。幅員 3m の歩道ならフクギやオオバナソシンカ、幅員 5m 以上ならアカギやガジュマルというふうに植栽すれば植栽後の樹形管理も容易であり、樹木の自然樹形も生きてくる。

しかしながら、現状は狭い歩道に中型種や大型種が植えられている例も多く、そのため交通の障害になったり、民有地に侵入するなどして苦情の要因となっている。

◆歩道幅員と街路樹の植栽

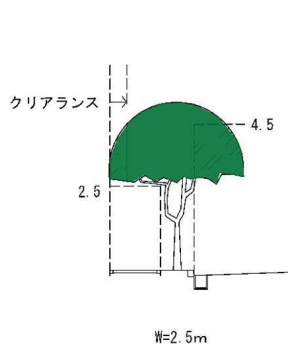
歩道幅員	3m未満	3.0m以上 3.5m未満	3.5m以上 5m未満	5m以上
配植図	<p>小型種の植栽</p> <p>小型種の植栽</p>	<p>小型種の植栽</p> <p>小型種の植栽</p>	<p>中型種の植栽</p> <p>中型種の植栽</p>	<p>大型種の植栽</p> <p>大型種の植栽</p>

(3)歩道幅員と樹形の管理

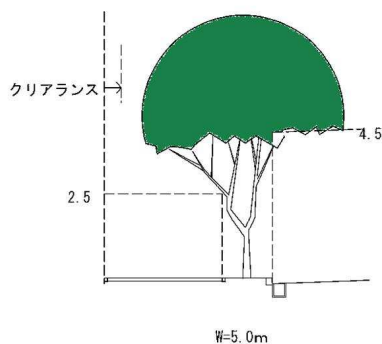
街路樹は建築限界が定められている中で維持しなければならないため、植栽当初は自然樹形であった樹木も剪定により建築限界内に納めているうちに歩道空間に合わせて樹形が変わってくる。これは「矯正自然樹形」というもので、公園等の広場において剪定もせずに自然に任せて伸長してできあがる樹木の樹形とは異なるが、それでもなるべく樹木本来の有する自然樹形で維持しようとするのが街路樹なのである。

那覇市において、街路樹が植栽されている道路の歩道は、幅員が 2.5～5.0m の範囲である。例えばアカギを例にとると、下図のように樹形は傘状形であり、幅員が 2.5m と 5.0m とでは枝を横に広げられる範囲が異なり、狭い程では枝が建築限界に侵入するので剪定しながら形を次第に変えていく。これを「緑量増加型」の剪定という。みどり多い街並み景観、緑陰のある歩道環境が求められている状況で、こうした弾力的な考え方で対応することが望ましい。

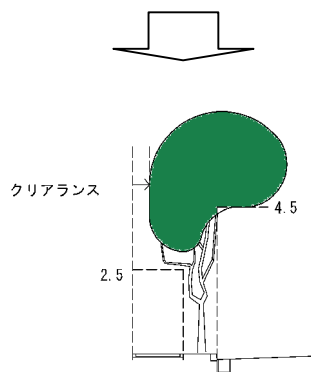
□歩道幅員と樹形の関係



- ・幅員が狭いと枝張りは細く、樹高は低くなる。
- ・建築限界にも侵入しやすくなり、維持が困難となる



幅員が広いときれいに傘状形をつくり、建築限界をクリアして伸長することができる



傘状樹形からかなり変化するが、歩道に緑陰を提供しみどり豊かなまちなみを形成する

(4)樹木のライフサイクルと剪定時期

沖縄は亜熱帯気候に属し、那覇市の年平均気温が 22.4℃と周年温暖である。その気候の中にも春・夏・秋・冬のそれぞれの季節がある。樹木は、この季節の中で休眠・萌芽・生長・開花・結実というライフサイクル（生活形態）を有し、春咲きや秋咲きなど、それぞれに開花時期を有している。

樹木が開花するためには、開花に必要な充実した枝を用意しておかねばならない。その枝は、樹木により異なり、その年に伸長した当年枝か、前年に伸びた前年枝の場合がある。よく知られているヒカンザクラの場合は前年枝に花芽を付ける。秋～晩秋に咲くものには当年枝が多い。

ほとんどの樹木はそうした枝の頂部や側部に花芽を形成し、温度や日照に反応して花芽が動き開花するが、これを「花芽分化」という。

剪定は、こうした樹木のライフサイクルに合わせて行うのがよい。開花時期に基づく樹木のライフサイクルと剪定時期は下表のとおり。

□春～夏に開花するタイプ

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育変化		休眠		萌芽・伸長			開花・結実			萌芽・伸長			
剪定	花木										→	→	
	一般樹木		→								→	→	

対象樹種：デイゴ、ハウオウボク、ゴールデンシャワー、オオバナサルスベリ等

□秋～冬に開花するタイプ

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育変化		休眠		萌芽・伸長						開花・結実			
剪定	花木		→										
	一般樹木		→							→			

対象樹種：トックリキワタ、モクセンナ、ヨウテイボク等

□冬～春先に開花するタイプ

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育変化		開花・結実		萌芽・伸長									
剪定	花木		→										
	一般樹木		→							→			

対象樹種：ヒカンザクラ、トックリキワタ、ビーゲンビリア、ブッソウゲ等

②花木の開花期と剪定

沖縄に見られる花木の多くは熱帯地域から導入されたものであり、花芽分化を起こす要因が温度、日照、雨量のいずれかであるかはまだ究明されていない。花木の原産地域と沖縄では開花期も異なるし、その地域の温度条件でも変わってくる。例えば、同じホウホウボクでも台湾の高雄では5月に満開するが、沖縄では6月末～7月であり一ヶ月ほど開花期が異なる。それは先述した温度や日照などが違うからである。

したがって、沖縄には独自の花木の開花期があるともいえ、その剪定期については開花する枝の用意をしておくという意味から、ほとんどの花木は開花直後に剪定するのが良い。

那覇市道における花木の開花期は下表のとおり。

□花木の開花期と剪定期

樹種名	開花期と剪定期												備 考
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
アカバナイッペー						■	■	■					
オオバナサルスベリ					■	■							
オオバナソシンカ	■	■	■									■	■
キワタノキ			■	■									
クチナシ			■	■	■								
コガネノウゼン			■	■									
ゴールデンシャワー							■	■					
サガリバナ						■	■	■					
シダレブラシノキ						■	■						
シマサルスベリ						■	■	■	■	■			
センダン				■	■								
ソウシジュ			■	■									
台湾ンモクゲンジ										■	■		
トックリキワタ										■	■		
デイゴ				■	■								
ヒカンザクラ	■	■											
ピンクテコマ			■	■	■								
フィリソシンカ											■	■	
ホウオウボク						■	■	■					
ムラサキイペー		■	■										
ムラサキソシンカ	■	■	■								■		
モクセンナ										■	■		
モモイロノウゼン						■	■	■					